

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年11月15日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから11月15日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

明日の委員会の定例会の議題は5つです。

まず1つ目が、高経年化した発電用原子炉に関する安全規制の検討の2回目です。

これは先々週、11月2日の委員会に続きまして2回目ということになります。前回宿題となっていた事項、設計の古さの話とか未適合炉の扱いなどの点について事務方の考え方が示されるということになります。また、事業者の意見を聞くということになりますので、そのやり方についても提案があって議論されるということになります。

議題の2つ目ですけれども、1F（福島第一原子力発電所）の実施計画の変更認可、ALPS（多核種除去設備）処理水の海洋放出時の運用という件になります。

ALPS処理水の海洋放出については、主にハード面での変更認可、これを7月に行っていますけれども、先日、その運用面での変更申請が出てきましたので、それへの対応案を諮るということになります。

変更申請の内容は、組織体制の見直しとか測定する核種の選定といったようなことになっています。今後、新しく設置されました1Fの審査会合、技術会合と呼んでいますけれども、そこで審査を行っていくということになります。

議題の3つ目ですけれども、1Fにおける耐震クラス分類と地震動の適用の考え方ということです。これは元々去年の2月13日に大熊町と双葉町で震度6弱を観測した地震、これに端を発しまして、去年の9月8日の委員会で、1Fの耐震設計における地震動の適用の考え方というものを整理したのですけれども、その考え方というものの適用の考え方がいろいろ東電との間で見解の相違もありまして、改めて先月の1Fの監視・評価検討会で議論されましたので、その結果も踏まえまして改めて考え方を整理するというものになります。

議題の4つ目ですけれども、バックフィットに関する文書の策定ということになります。

バックフィットについては、従来からルールを定めるべきなのではないかといった意見もあったところでありましてけれども、今年2月9日の委員会で、何らかの考え方を整理

した文書を策定するという方針が決まったところであり、今回はそういうその考え方を整理した文書の案を提示するというものになります。

過去のバックフィットの事例、16事例ぐらいあるようなのですけれども、それを分析して、そこから共通する考え方を抽出する、そういった性質の文書になるということのようです。

最終的には委員会名義の決定文書になる見込みですけれども、あしたの時点ではまだ決定までは至らずに議論までということになるかと思われま。

議題の5つ目ですけれども、設計・建設、材料及び溶接に係る日本機械学会の規格の技術評価の実施ということになります。

民間規格の技術評価、これは計画的に毎年やっているものですが、次にやることになっているのは、この日本機械学会の規格ということになっています。

その技術評価のやり方について、こういうメンバーの検討チームでやりますといったようなことを報告するということになります。

次が、1ポツの(2)のところですが、あしたは非公開の臨時会議もあります。

議題は2つで、1つが柏崎刈羽の追加検査の状況ということと、議題の2つ目は、今年度第2四半期の原子力規制検査、核物質防護部分の検査の結果の報告ということになります。

その下、1ポツの(3)のところですが、委員会は、来週は水曜日がお休みなので火曜日に行われるということになっています。それに伴いまして委員長会見も火曜日になるということになっていて、この報道官ブリーフィングも火曜は行わないということになります。

2ページ目に行きまして、(5)ですが、この報道官のブリーフィング、今週金曜日の時間が変わっています。これは先ほど委員会が火曜日になる関係で、火曜日にこの議題の説明ができないので、金曜日に議題を説明することにしていて、なので、時間も遅らせて17時半からということになっています。

次ですが、11月21日の(6)特定原子力施設の実施計画の審査に係る技術会合というものであります。

これは新しく設置されました1Fの審査会合の第1回目ということになりまして、議題は1つで、先ほども申し上げましたALPS処理水の海洋放出時の運用に関する実施計画変更認可の件ということになります。

今後、この1Fの技術会合も定期的に行っていくことになりまして、それに伴いまして、監視評価検討会のほうは、前回の会合でも言及がありましたけれども、今の月1ペースよりも若干頻度が下がっていくと見込まれています。

次に、3ページ目に行きまして、11月21日の(7)第1092回審査会合です。

議題は1つで、柏崎刈羽の6号機の設工認ということになります。杭の損傷の件ということで、7月と10月に引き続いてその議題ということになっています。

今回は、東電から杭の損傷について、追加的に行った調査の結果が報告されるということになるようです。その中には、新しく杭とセメント改良土が干渉している場所が見つかったといった内容が含まれるということのようです。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

タカダさん。

○記者 西日本新聞のタカダです。お疲れさまです。

本日開催されました九電川内原発の延長申請の関係でお尋ねがあります。

改めてなのですけれども、どういった点を着目して審査されるのかということと、今後の審査のスケジュールが分かれば、どういう間隔で審査を行うのかとか、そういったことを教えていただきたいと思います。

○黒川総務課長 過去、高浜なり美浜なりで運転延長の認可をしていますけれども、特に川内特有の何かがあるというのは聞いていないところです。なので、同じような論点になるのだと思います。

スケジュールはちょっとまだ分からないところです。

○司会 ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日のヨシノですが、あしたの議題2なのですけれども、ざっくり言うと、今まで64核種と言われていたものが精密に測定したら α 3、 β 1の、だからトータルで68核種になって、うち30プラストリチウム1だから31。31を測定すると。残り37は東電独自にやりますよと。31核種に関しては、JAEAにも測定を出すというようなことだと思うのですけれども、それに関してそれ以上何か決めることはあるのですか。

○黒川総務課長 そういうのが出てきましたということだと思いますので、元から我々としても、必要ない核種を測定するというのはかえってよくないという意見を申し上げてきたところなので、そういうものが出てきて、それで、こういう核種ですねということなのか、過不足があるのかみたいなことはあるのかなとは思っています。

○記者 要するに、測定する核種を東電がそのように決めたということについて、委員間で話し合って了承するということですか。

○黒川総務課長 いや、この議題については中身の話は全然なくて、今後そういう申請が出てきたので、例の新しくできた技術会合で議論して、あと、定期的にというか委員会にもちゃんと報告しますとか、そういったような中身、パブコメをします、しませんとか、そういう手続面のことがあしたは議論される見込みです。

○記者 具体的に核種の選定等々については、21日月曜日の実施計画の審査に関わる技術

会合と、このところでいろいろ話し合うと。

○黒川総務課長　そうですね。中身のほうはその審査会合で見ていくことになります。

○司会　ほかに御質問のある方はいらっしゃいますか。

よろしいでしょうか。

それでは本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—